

バットネクタイ

素敵な贈り物



漆塗り

バット

応援練習の途中、「江州彦根七職家」から野球部に手作りのバットが贈呈された。
江州彦根七職家は若手仏壇職人で組織された団体で現在は8人で活動されている。

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

バットを手にする野球部員

ネクタイの端にはグラウンドをかたどったデザインも



バットは黒の漆塗り、彫られた文字「第81回 選抜野球大会 出場記」

裏にはモットーの「今、ここ」の文字。今井先生の名前も



越さんは「何か応援できることはないかと思ひ、作った。1日でも長く甲子園に置いてやってもらえるように、頑張ってプレイして」と話された。

「当日も応援に行きます！」。舟越さんは「何か応援できることはないかと思ひ、作った。1日でも長く甲子園に置いてやってもらえるように、頑張ってプレイして」と話された。



にこやかな今井先生と清水先生

今回のネクタイは高級感にこだわったそうで、柄もプリントするのではなく、京都の織物屋に織ってもらったとのこと。色にもこだわられたそう。イメージ通りのものができた。今井先生も思った以上に喜んでくださった、それが一番うれしかった」と笑顔で話された。

念彦根東高校には金箔が押してある。バットの彫刻をさした彫刻師の井尻一茂さんは「ほりもの(彫る字)の細いところやはねているところなどを忠実に彫るようにした」と話された。バットの据付の台は木地師の山下学さんが作ってくださったそうだ。漆を塗ってくださった秋道恵一さんは「当日も応援に行きます！」。舟越さんは「何か応援できることはないかと思ひ、作った。1日でも長く甲子園に置いてやってもらえるように、頑張ってプレイして」と話された。

本日の今井先生のネクタイに注目した。赤地に黄色のライン：と思つたら、なんと全体に校章が織り込まれたデザインだった。清水美春先生からの贈り物だ。「大学卒業後から7年間東高に勤めて、今井先生にはいつもお世話になつたし、先生がずっと努力されているのを近くで見ているこの機会に何か贈り物をしようと思つた」とのこと。清水先生は選抜が決まった1月23日から贈り物をインターネットで調べ始め、2月上旬に自分でデザインするネクタイに決められたそうだ。先生はオリジナルのものを作るのが好きだということで、部活の靴下や、Tシャツも自分でデザインされている。

素晴らしいネクタイ